

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ豊
流
会

New

http://ito-tokuya.com/tokuya

伊藤 とくや

Winter, 2012, vol.23

加藤教育長に問う！

2期8年の総括と、今後の展望について



加藤正俊教育長が発案し、豊橋市教育委員会が発行した、若い教師に向けて習得すべき教師の心得をまとめた冊子「教育羅針盤」

質問の趣旨

3期目の就任をされた加藤教育長に、教育長2期8年を踏まえ、3期目に向けて本市における教育施策の現状とこれから目指す先について質問しました。

- (1) 2期8年の総括について
- (2) 教育施策推進に向けた機構改革の現状と課題の認識について
- (3) 学校の自主性・自律性の確立に向けた取り組みの現状と課題の認識について
- (4) 「いのちの教育」の充実に向けた取り組みの現状と課題の認識について

(1) 「教育は未来への投資」という言葉がある。成果を期待しているという意味では、個人にとっても社会にとっても典型的な投資であり、「次代を担い、未来を託すことのできる人材を育成する」といった人づくりの営みである。

■教育における投資は、企業や施策として行う投資と異なり、その効果は10年20年といった長いスパンで見えていく必要がある。さらにその成果は、子どもの成長した姿や地域社会における人間関係の豊さといったことを指標として捉えねばならない。

■それが「教育は100年の大計」と言われる所以であり、こうした観点から本市のこれからの教育を展望したとき、加藤教育長が平成16年に就任して以来、2期8年間に取り組まれた教育施策とは、本市の未来を託すことのできる人材育成のためであったのではないかと。

☞ 8年間の主な施策を振り返ると、

- 平成17年度の2学期制の完全実施
- 「英会話のできる豊橋っ子」をめざした英会話授業の実現
- 若手教師の育成を図った教育羅針盤の発刊
- 平成19年度の地域教育ボランティア制度の導入 などがある。

☞ 中核市として教員の研修権が県より委譲されたことを生かし、

- 市独自の研修体制を確立して新学習指導要領への対応を図る。
- 教職員の資質向上を図るとともに、H23年度からは、本市独自で教員免許状更新講習を実施し、教育の質を高める努力をされている。

☞ そして本市の教育の将来像やあるべき姿については、子どもの姿や学校現場の実態から構想し、必要となる先進的な取り組みを積極的に取り入れてきたことも確認している。

●今日的な教育課題の解決として、食育・食農教育、国際理解教育、特別支援教育、キャリア教育、小中連携教育や環境教育などがあるが、これらは各学校に研究を委嘱し、研究を重ねること、地域社会のちからを活かすことでその成果を広げている。

☞ 一方、悲しむべき事故もあった。平成22年に浜名湖カッターボート転覆事故では、一つの尊い命を失ってしまった。この事故を教訓として、本市の学校安全全般について見直しを図るとともに、必要な改善策を講じ、あらためて命の大切さの本質を問うとする「豊橋学校いのちの日」を創設し、安心安全な学校づくりを推進している。

■さらにはこの一環として、東日本大震災で被災した宮城県女川市と石巻市の小中高校の校長、教頭らを招き「子どもの教育を語る意見交換会」を開催するなど、学校の安全管理や防災管理体制の充実に向けての取り組みをされた。

■そのような中、本市は教育の柱として子どもたち一人ひとりが輝く学びを創造するなかで命を大切に育てる「いのちの教育」を推進している。

☞ また、教職員の資質向上に取り組む中で決してあってはならない本市教員による不祥事がこの1年で3件も続いている。

■未来を託す人材の育成を図る教育に携わる教員には、崇高な使命感をもつことが求められている。

■不祥事は子どもや地域に、それ以上に不祥事を起こした家族に深い痛手を負わす。断固として再発防止に努めねばならない。

☞ さらに教育の本質に帰れば「知育、徳育、体育」であり、近年は食育(音育)も加えられているが、人間性が豊かな調和のとれた逞しい子どもを育てる道を示す、本市における教職員の資質向上のための取り組みを今後も継続強化し、徹底を図っていく必要がある。

以上、わたくしなりに施策を追うかたちで振り返らせていただいたが、あらためて教育長自身の2期8年の総括についてとしてお聞きしたい。

(2) 今、国を挙げて進められている構造改革のコンセプトは地方分権と規制緩和である。

■本市は、中核市として所有している様々な諸権限を最大限に生かすことが求められている。

■本市教育部は、機構改革推進本部からの提案をうけて平成23年度より8つの課を統括する教育政策課を新たに設置するなど組織機構改革をされた。



教育施策推進に向けた機構改革について加藤教育長は大きく関与されたことと思うが、現状と課題の認識と対応について伺う。

(3) 学校の自主・自律を果たすためには、規制と依存からの脱却や特色ある学校づくりが欠かせない。

■子どもたちの健やかな成長と豊かな心の育成等を具現していくためには、各学校が独自の視点を持って地域の自然、歴史や文化といった地域の財産に着目するとともに活用し、地域の人材と連携を深めながら特色ある教育活動を展開していく必要がある。

■子どもたちに価値ある教育活動を展開するための、**学校の自主性・自律性の確立に向けたこれまでの取り組みと課題について伺う。**

(4) 「いのちを慈しむ子」は平成22年版から平成24年に学校教育の指針が改訂された際も一貫して中心に据えられた部分でもある。

教育長が「いのちの教育」についてどのように考えているか、「いのちの教育」という言葉に込められた思いは何か、さらに「いのちの教育」の充実に向けたこれまでの取り組みと、そこで見出された課題や対応について伺う。

(1)(3)(4)まとめたかたちでの答弁 教育長

1期目について、まず本市の教育行政を推進していく理念として「いのちの教育」を掲げました。これは、この世に大切な使命をもって生まれた、あらゆる可能性に充ちたいのちを、かけがえのない「この子」として輝かせ、心豊かにしかも社会貢献していける子どもを育てていくものであります。その具現を図るために、「この子」を取り巻く教育環境を整えることを使命と捉え、子どもにとって身近で最大の教育環境である教師の資質向上と、学校内外の基盤づくりを目指して尽力してまいりました。**前期**では目指すべき教師の姿や教育の原風景を描く「教育羅針盤」を発刊し、**後期**では教師に直接メッセージを発信する研修会「教育長特別講座」の機会を設け、教師同士が語り合い、育み合えるような学校の風土の醸成に努めてまいりました。また、学校内外の基盤づくりとしましては、学校の自主性・自律性の確立を手がけました。**2期目に入り**学校外の基盤づくりにも着手し、「地域ぐるみの教育システムの構築」を御旗に地域教育ボランティア制度を導入いたしました。

(2)答弁 教育長 教育施策推進に向けた機構改革の現状と課題の認識と対応について 教育施策を総合的に推進するため、「横の連携」を強化する体制整備として、教育委員会8課の連携・協力のもと教育政策課が中心となり、計画に沿った施策推進に取り組むとともに、**本市教育の10年先を見据えたグランドデザイン**として、各課の施策を体系的に位置づけた「教育振興基本計画」を策定いたしました。一方、「縦の連携」として、従来からの幼保小に加え、市内の小中高등학교の連携にも取り組んでまいりました。今後はこの取り組みを充実・拡大してまいりたいと考えております。

2回目 (1)(3)(4)まとめて

■学校の自主性・自律性を発揮していくための基盤には地域の教育力が重要であり、地域教育ボランティア制度を導入することで「地域の子どもは地域で育てる」風土をつくっていききたいとのことである。

■しかし、今日の社会の変化、とりわけ子どもたちを取り巻く環境の変化は著しい。

■例えば、地域社会における子どもたちの姿に目を向けてみると、私自身が子どもだった頃とは大きく異なり、子どもの数の減少が大きく進行している。

■一方で高齢化も進展してきており、地域におけるさまざまな人と人とのかわりが希薄化してきている。

■そのため、地域の子ども会活動や祭礼などの行事が、どうしても固定された人間関係のもとで行わざるを得なかったり、以前のように多様な地域の人とのかわりの中で子どもを育てるといったことが難しくなっていることを実感している。

■教育長は「地域教育ボランティア制度」を導入し、地域と子どものかかわりを密接にするためのしかけをしたが、一層進めていくためには子どもたち自身が郷土を知り、郷土にかかわり、郷土で生きるような教育が不可欠ではないだろうか。

(1)(3)(4)まとめて 3期目における本市教育のめざすことについて伺う。

教育長 今後もさまざまな教育課題が噴出してくることが予想されますが、各学校が自主性・自律性を発揮し、自信をもって教育活動を展開していくために、教育委員会が揺らぐことのない教育の理念や哲学をもって明確な教育ビジョンを指し示すことが重要であると考えています。

◆その理念や哲学の指針ですが、古きよき時代にあった日本人の精神性を学ぶ、すなわち「人間教育への回帰」という教育理念こそが今後の教育に最も必要とされているものであると確信しております。

◆しかしながら、子どもたちにこうした心を刻み込むのは、彼らを指導する教師自身であります。今後とも、子どもを慈しむ心と豊かな感性を持ちえた人間教師の育成に一層力を入れてまいりたいと考えております。

◆「地域の子どもは地域で育てる」風土が醸成されつつある今、地域の文化や歴史、先人の生き方を中心に据えた郷土学習を展開していく環境が整ってきております。これにより古きよき時代にあった地域の原風景や先人の偉業にふれた子どもたちは、郷土を愛し郷土に誇りをもつとともに、人として生きる指針を学ぶ人間教育の場を創出できるものと考えております。

2回目 (2) 教育施策の改革には「マネジメント改革」「コンプライアンス改革」「ガバナンス改革」があると思うが、本市における教育施策推進に向けた機構改革は、部内の縦割りを払拭するための政策グループを設置する教育委員会内の「横の改革」の強化を図ると理解しました。

■豊橋市教育振興基本計画では、目指す人物像を「心豊かで、夢と志を持ち、ともに生きる人」とし、生活様式が変化する中でもたらされた家庭や地域社会の希薄化を解消するとともに、若者や大人になっても心身ともに健康で自立した個人として成長し続けられることを目指している。そこで、

「縦の連携」として取り組んできた校種を越えた連携教育の現状と今後の展望について伺う。

教育長 子どもの教育については、義務教育の中だけで考えるのではなく、ライフステージに合わせた長いスパンで学びと成長をとらえることが重要であるとの考えから、校種を越えた連携教育に積極的に取り組んでいます。

◆また、昨年4月には東三河県庁が誕生し、東三河一体となった枠組みができつつありますが、教育分野においても、これを契機に現在の市内の学校での小中高連携教育を一層充実させるとともに、東三河地域へ拡大することを視野に、歩みを進めてまいりたいと考えております。

伊藤とくやの意見とまとめ

教育の基本が独立自尊と共生他尊を両立させる人づくりであるとするならば、学校はそれぞれ自主性・自律性を発揮し、自信をもって教育活動を展開せねばなりません。

■加藤教育長3期目の4年間には、やらねばならない仕事が沢山残されている。揺らぐことのない教育者として不易の「理念」と「哲学」のもと、教育長のリーダーシップのもとで教育行政の「経営」と「改革」をすすめるとともに、豊橋はじめ東三河の教育の共通課題解決や振興策など、時代の趨勢や流行を先んじて読み率先することで、我が国の教育界の一筋の光明として、「夢や志」を果たすことのできる「希望」の教育となることを期待して私の質問を終わります。

あとがき 教職員の力量向上「教育羅針盤」だが、これは教育長の教育哲学そのものであり、私には生涯を一高校教師として送った稀有の教養人であるアランの哲学を彷彿とさせる。
①わかりやすい②合理的③一貫した人間愛④意欲の価値を高く評価し、人々に勇気を与える⑤偏見を持たない⑥深い教養に支えられた、豊かな文化の香りがするなど、現代人に共通の文明、科学、そして文化への尊敬とあこがれがある。

豊橋街頭清掃の会のお知らせ
毎月第3金曜日は「ここにこ」前に集合!
毎月第3金曜日 AM6:00~7:00 雨天決行
お天気に係わらず、豊橋のまちをきれいに
する会を開催します。もちろん参加無料
出張報告会大歓迎です。ご連絡下さい。

発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-68
FAX : 0532-56-5521
TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯 : 090-3855-9696